

糸車

編集 山形村ふるさと伝承館

路傍に忘れられた

道しるべ

「是れより左水沢道」。周囲の自然にとけこんだ何とも優雅な道しるべではありませんか。道しるべは昔の旅人には欠かせないものであった。この様な道しるべが形や大きさは違え、あまり人の目にとまらず村の辻

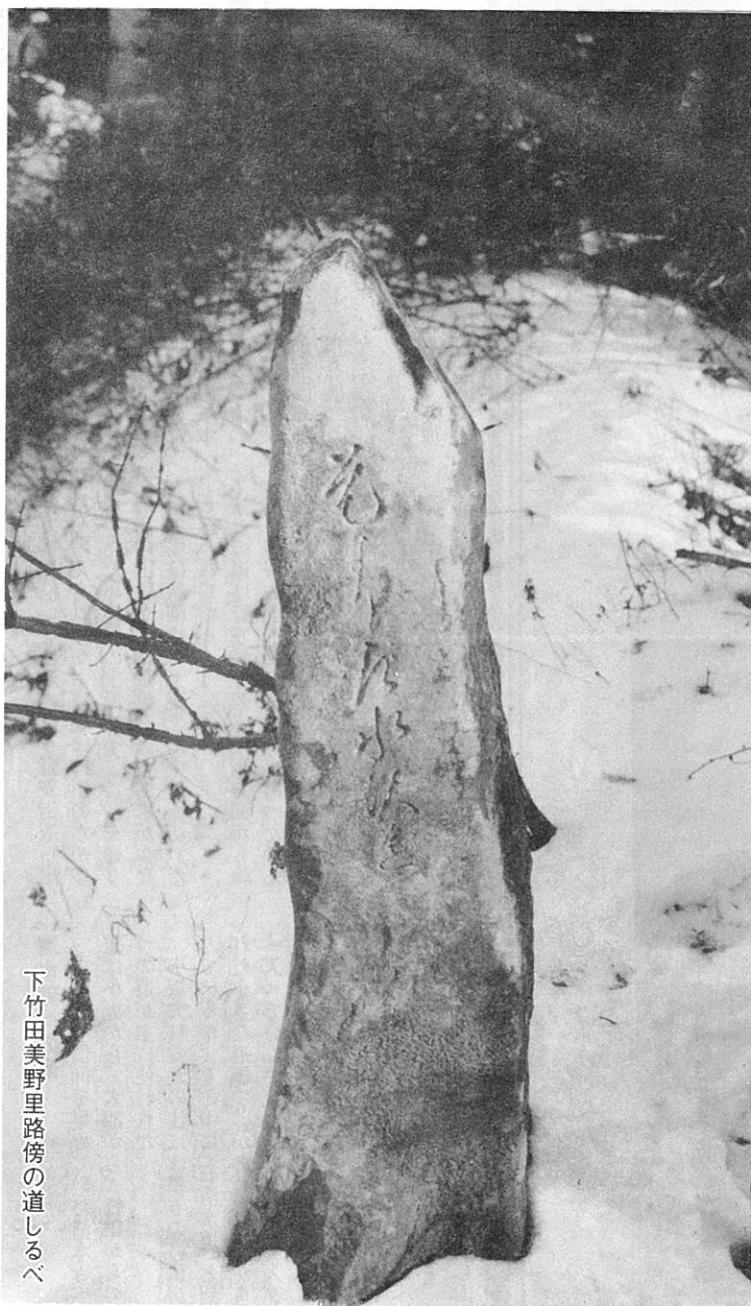
々にひっそりとたっている。

これらの道しるべからこのしるべを頼りに、荷物を背負い通ったであろう旅人の姿と、旅の安全を願う村人の旅人への暖かい思いやりがひしひしと伝わってくる。

何時頃、誰がたてたものか、はっきりしないものも多いが、古道と思われる道の辻々には必

ずたっている。

道路整備によってその使命を終えた道しるべは、すっかり忘れ去られている。村の辻々の道しるべを紹介し、こんな前時代の遺物は、今の車社会には無用と捨て去るのではなく、古を偲ぶ縁として何時までも大切に残したいものである。



下竹田美野里路傍の道しるべ

千国街道(別名 牛道)

千国街道は新潟県糸魚川から安曇野を通り、塩尻にて中仙道につながる街道である。しかし、中世では安曇野を南北に走る道は千国街道と呼んでいたようで、山形村を南北に通るこの道も千国街道と呼んだ。圃場整備により畑中の道は消滅したが、道標と古地図によって道筋を辿りたい。

下竹田上集落の辻に「右せば志うじり左はたはしは」と刻まれた道標(17)がたっている。更に南東へ下ると唐沢川の北、森口線との辻に「右村さみぞ 左はたはしは」と刻まれた道標があると村誌に

記されているが今は行方不明である。森口線へ出てきよみず交通の辻には「右ハシバ 左山ミチ」と並刻された大日如来(25)があり、南百の御判形辻には「右きそすわ 左まつもと」と裏面に刻んだ道祖神(9)がある。この辻から東の下本郷集落を過ぎた畑中の三叉路に「右大つま 左はしは道」の道標(10)がある。千国街道はここから三間沢川掛田の橋を渡り野口新田を経由し赤坂橋にて鎮川を渡ったと考えられる。

反対側の波田方面は、道標に刻まれた「はしは」への道を辿ることになる。下波田、中波田の神社から上波田、上海渡を

経て梓川沿いをさかのぼり野麦街道へ出たと考えられるが、夏場は梓川の水が多かったため赤松の上段「なろう原」を通り龍島の上段から雑炊橋を渡り、水が少ない冬場は新淵橋の上流で川中を横切ったと言われている。

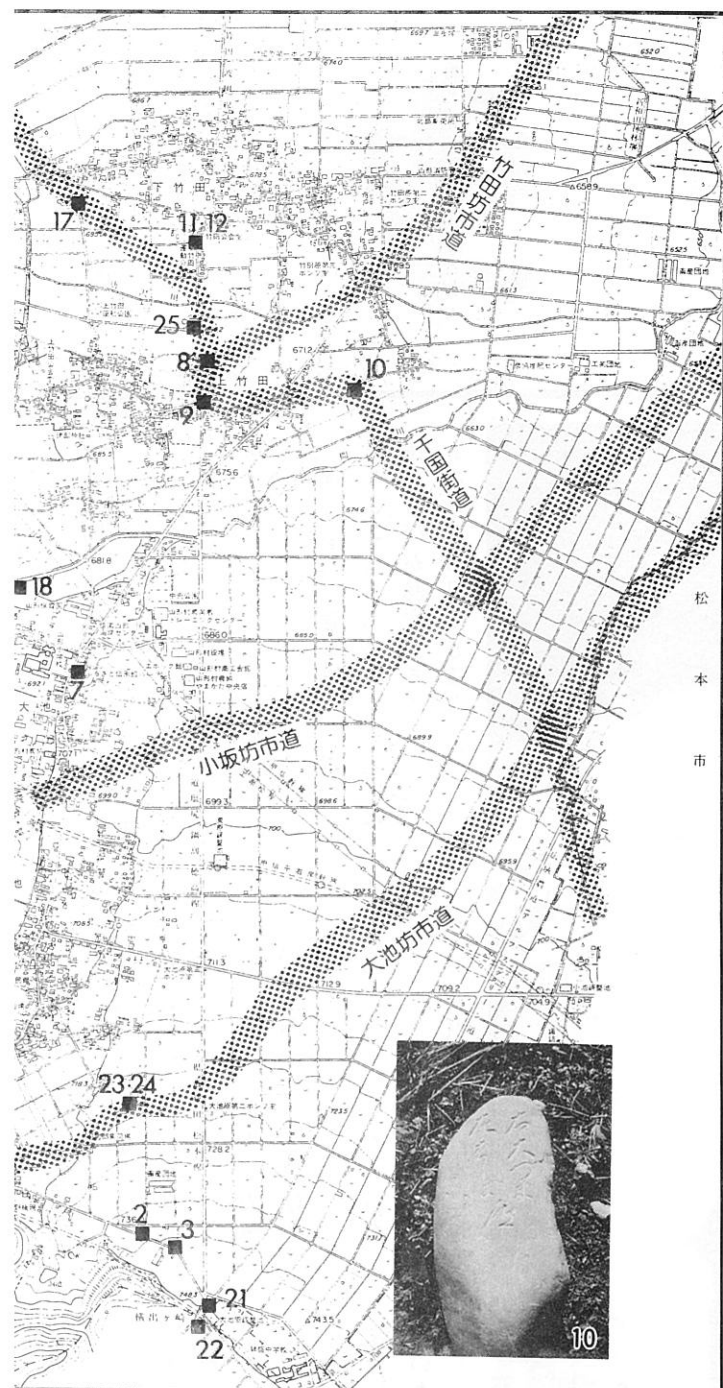
この道は野麦峠を越え飛騨方面から諏訪・岡谷方面への最短経路であったゆえ飛騨の若き製糸工女たちが往復したことが知られ、道沿いにあたる中波田西村屋商店の少し西には「東国屋」と呼ばれた旅館があり、工女をはじめ旅人・旅芸人が泊ったことが知られている。

清水寺への道

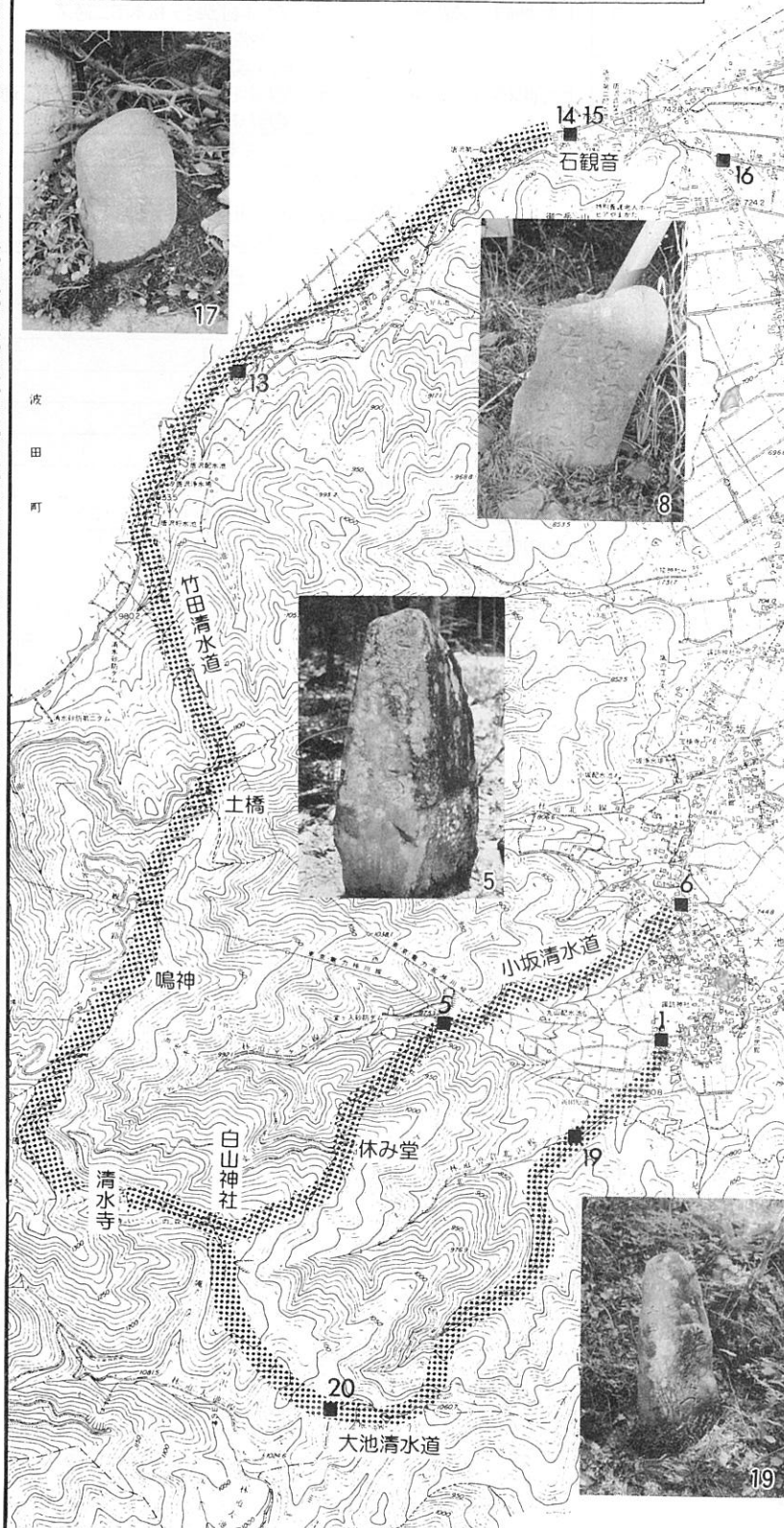
古くから信仰を集めていた清水寺への道は小坂から、大池から、竹田からの三つの道が主に使われた。

小坂大日堂北の辻には多くの石仏が並んでいるが、その中に「右清水道」と刻まれた小さな道標(6)があり、ここから山へ入っていく。登っていくと堂ヶ入ダムの下に左を指差した図柄を刻んだ道標(5)がある。現在は右へと林道が伸びているがこれは新しくできた道で、昔は左側の「古道」を登り、休み堂を経て寺へ至った。

大池清水道は、上大池諏訪社から山へ



山形村の道標



向い、林道大池線へ左折する辻に「右小坂清水道 左大池清水道」と記された道標(①)がある。北沢と南沢の分岐点には左を指した指差し道標(⑨)があり、南沢を登り向坂と呼ばれる山中には右を指した指差し道標(②)がひっそりとなつてゐる。ここから白山神社を経て寺へ向かった。

竹田からの道は、石観音に「左やまみち」と記された道標が二つ(⑭・⑮)あり、唐沢集落を抜けた浄水場の下に「是より左水沢道」と記された道標(⑬)がある。これは清水寺を参拝した者が波田町水沢山若沢寺へ向かうための道標で、若沢寺が栄えた江戸時代に建てられたと考えられ

る。清水寺へは更に登って清水ダムの辺りから平沢を登り、土橋、鳴神をへて清水寺へ行った。なお、村誌には清水寺とスカイランドきよみずへ分かれる辻周辺に「左清水」と刻まれた道標があると記されているが、今はどこに行つてしまつたか分からない。

市道 (いちみち)

大池坊市道、小坂坊市道、竹田坊市道など、各集落から「市」である松本へとつながる道を指すが、畑の中にあつた道は圃場整備により跡形もなく消え去つた。また大池坊市道、小坂坊市道には道標が

残つておらず、古地図などから道を伺うことができるのみである。

竹田坊市道に関する道標は幾つか存在する。御判形の辻には「左まつもと」(⑨)とあり、北へ百歩行つた辻には「右松もと」と刻まれた道標(⑧)がある。ここから東北へ行き、唐沢川河川敷を通り、下竹田の停留所からは現在の県道沿いに松本へ向かつた市道がまずあげられる。また、斉藤眞一氏の辻には「右まつもと」左大づま道」と刻まれた道標(⑪) 現在下竹田公会堂へ移転があり、三夜塚を抜け前述の市道と今の二光印刷の辺りで合流した市道があつた。

市道は松本へ通じる生活上特に重要な道で、各集落からまつて伸びていた。

上大池清和会

村内には二五基道標が現存しているがそのうち八基は上大池の青年会であつた清和会が昭和七年に建てたもの(別表参照である。当時の役員だつた方の話によると、以前は木製の道標があつたが、朽ちたり牛馬を繋いだりして倒れてゐた。そこで石で作直すことにし、朝日村役場に頼み、鎮川の石を採取することの許可を得、馬車四台に乗せ上大池集会所に運び、石屋と清和会で協力して彫つたことである。

山形村の道標 一覧表

	所在地	碑面	高	幅	厚	備考
1	上大池豆沢辻	標二向テ 右小坂清水道 左大池清水道	67	50	17	昭和7年 上大池清和会
2	上大池横手ヶ崎路傍	標二向テ 左作場道	52	40	10	昭和7年 上大池清和会
3	上大池横手ヶ崎路傍	標二向テ 右ハ本村竹田区ヲ経テ波多方面二通ズ 左ハ本村ヲ経テ松本市二通ズ 後ハ朝日村ヲ経テ塩尻二通ズ	82	33	18	昭和7年 上大池清和会
4	上大池久保辻	標二向テ 右ハ当区ヲ経テ清水寺二至ル 左ハ朝日村ヲ経テ洗馬塩尻方面二通ズ 後方ハ松本市二通ズ	90	40	20	昭和7年 上大池清和会
5	小坂清水寺古道入口	左きよみづ (左を指差した図柄)	65	35	20	
6	小坂大日広場	右清水道	40	16	18	
7	下大池伝承館前	標二向テ 右ハ竹田区ヲ経テ波多方面二通ズ 左ハ当区ヲ経テ清水寺二至ル	70	85	42	昭和7年 上大池清和会 上大池より移転
8	上竹田原村辻	右松もと 左はた道	55	30	20	
9	上竹田御膳所辻	(裏) 右きそすわ 左まつもと (表) 道祖口	41	42	10	道祖神の裏面に刻んである 施主 竹田村
10	上竹田下本郷辻	右大つま 左はしば道	54	23	15	
11	下竹田公会堂広場	右まつもと 左大づま道	59	25	9	下竹田南中より移転
12	下竹田公会堂広場	右せは志うじり道 左まつもと	41	30	10	公会堂へ移転
13	下竹田美野里路傍	之より左水沢道	100	24	30	施主 竹田村
14	下竹田石観音路傍	右はしば 左やま道 馬頭尊	105	75	25	
15	下竹田石観音路傍	右はたはしば 左やまみち 大日如来	83	37	34	
16	上竹田唐沢下路傍	右今井みち 左和田みち 馬頭観世音	72	40	40	
17	下竹田上手村辻	右せはしうじり 左むら道 左はたはしば	60	25	20	
18	下大池下村田畔	右わだ 左はた 南こみいまい 大日如来	40	35	20	
19	上大池清水寺古道辻	左きよみづ 千手観音 (左を指差した図柄)	90	35	20	施主 大池兄弟館
20	上大池清水寺古道辻	右みよみづ 千手観音 (右を指差した図柄)	60	30	15	施主 大池兄弟館
21	上大池横手ヶ崎村境	標二向テ 右ハ朝日村ヲ経テ塩尻駅二通ズ 左ハ上今井ヲ経テ塩尻二通ズ 後ハ和田島立ヲ経テ松本市二通ズ	78	40	28	昭和7年 上大池清和会
22	上大池横手ヶ崎村境	—	—	—	—	金網で囲ってあり調査不可
23	上大池陣屋道路傍	標二向テ 右ハ今井村二至ル 前ハ竹田区ヲ経テ波多方面二通ズ 後ハ朝日村二至ル 左ハ当区ヲ経テ清水寺二至ル	90	54	24	昭和7年 上大池清和会
24	上大池陣屋道路傍	標二向テ 右ハ今井村ヲ経テ村井駅二至ル 左ハ神林村水代二至ル	65	30	22	昭和7年 上大池清和会
25	上竹田旧農協支所前	右ハシバ 左山ミチ 大日如来	49	40	24	

※ 現在所在を確認できる道標のみ掲載。

ふるさと伝承館事業報告

平成一一年一〇月三〇・三一日に、上大池区淀の内遺跡で発掘されたひすい製大珠（ペンダント）の特別展を行いました。一般公開は今回が初めてとなり、約二五〇名の方々が見学に訪れ、ペンダントに見入っていました。また来年度より常設展示を予定していますので御来館ください。

平成一一年一〇月一日付でふるさと伝承館長及び運営委員会委員の改選がありました。新たに選任された方々は次のとおりです。

ふるさと伝承館長

中川 美穂（小坂）

伝承館運営審議会委員

中村 義一（上大池）

上條 利昭（中大池）

中川 美穂（小坂）

小林 弥寿枝（小坂）

旗町 怜子（下大池）

竹野入 藤吾（上竹田）

水谷奈穂美（上竹田）

村上登志水（下竹田）